

説教



《青年主日》

ヨハネによる福音書の物語

ヨハネによる福音書 5・1-15

朴太元 (豊橋教会牧師)



近頃、「変化」「変革」という言葉をよく耳にする。ここ数年のベストセラー本のうち、6割が変化を主題にしたものだという。政治の世界においてもこの言葉が聞かない日はない。今年就任した米国のオバマ大統領は「CHANGE」をキャッチフレーズにして選挙戦を繰り広げ、初のアフリカ系大統領の誕生という、文字通り大きな変革を成した。また日本においても、変化、変革といった言葉は、今や野党のみならず、与党においても声高に

叫ばれ、その言葉なしには、政治の舞台には立てないのではないかと思うほどである。「変化」「変革」は、今、この社会で最も使われる、求められているものである。一般的にこの奇跡は、少しのものが多くのもに变化する、量的変化を代表する奇跡としてとらえられている。しかし最近、私はこの箇所を読むにあたり、本当にこの物語は量的変化だけを暗示する奇跡の物語なのだろうか、という思いにかられる。今回はこの物語の魚は、イエスの話を聞き

て来た群衆のうちの、少年が持っていたものと9節に於ける奇跡とを比べ、2章に登場する「カナの婚礼」の話のように、外見も量も変わらない中身が変わる、「質的变化」の奇跡が多く見られる。質的变化を強調するヨハネ福音書の中で、量的変化のこの5つのパンと2匹の魚の奇跡物語は、少く異質なものに見えてしまってくる5つのパンと2匹の魚は、イエスの話を聞き

て来た群衆のうちの、少年が持っていたものと9節に於ける奇跡とを比べ、2章に登場する「カナの婚礼」の話のように、外見も量も変わらない中身が変わる、「質的变化」の奇跡が多く見られる。質的变化を強調するヨハネ福音書の中で、量的変化のこの5つのパンと2匹の魚の奇跡物語は、少く異質なものに見えてしまってくる5つのパンと2匹の魚は、イエスの話を聞き

るはずもなく、ほぼ投げやりの口調で、イエスに相談する弟子の姿が描かれている。この少年の持つパンと魚とはいったい何なのであろうか。古くから様々な推測がされているが、私はこの食物は、少年の親がこの子に持たせたお弁当ではないかと考える。その自分のお弁当を、少年は弟子に差し出し、それがイエスに届けたことで、イエスはそれを用いられたのである。つまり、最も小さな者、小さな献げものにイエスは感心し、それを大いなる奇跡の形で、人の前に示されたのである。

もう一つは、お弁当を持ってきたのは、本当にこの少年だけだったのだろうか、という疑問である。この少年、もしくはその家族がお弁当を持参していったのなら、当然、これだけの群衆の中には、同じように自分のお弁当を持参して来た人がいてもおかしくない。ヨハネは、食物を持参したのはこの少年だけを記録しているが、実際には、他にも多数いたのではないかと私は考える。しかし彼らのほとんどは、弟子たちが食事の心配をしても、自分のための食物を差し出そうとは思わなかった。差し出したのは前述のとおり、少年だけである。ここからは私の想像の域を脱しないが、少年が差し出した食物をイエスが用いた姿を見て、自分のための食物を、後に差し出したが、私は、ここにこそ、この物語の偉大な奇跡の意味があると考える。つまり、物事は自分であらうと思つていた人たちが、小さな少年の行動と、イエスの祝福の姿に、自分の食物を、隣の人と共に分かち合おうとする、心の変化がもたらされたのである。しかもそれは、千人万人にのほろ、とてつもなく多くの人々の心が、一瞬にして変えられたのである。このように大群衆の気持ちが、一瞬にして変わることはとてつもなく大きな奇跡でないだろうか。一人の心を変え

るこの難しさを知らず、ちにとつて、一瞬にして何千何万人の人の心が変化するとは、この上ない大きな変化であり、外見や量ではなく、中身が変わる「質的变化」の奇跡である。少年の差し出したわずかな食物が5000人以上の人の空腹を満たすこの出来事は、小さな者の小さな献げものが、大きな変化をもたらすことを示しているのではないだろうか。5つのパンと2匹の魚の物語。それはイエス・キリストが示した、偉大な「質的变化」の奇跡の物語なのである。

歴史コラム⑧

日北米宣教協力会への加盟と共同の取り組み

李清一 (歴史編集委員会)



写真: JNAC解散総会後—ルイビルにおいて(2005年)

1973年、在日大韓基督教会(KCCJ)は、日北米宣教協力会(JNAC)に加盟した。JNACの前身は、基督教事業連合委員会(IBC・北米8教派の海外宣教部で構成)と日本基督教団、日本基督教教育同盟によって48年に組織された内外協力会(COC)であったが、73年に改組され、JNACとなった。

当時、KCCJの総務であった李仁夏牧師は、KCCJの第29回定期総会(73年10月開催)において、JNACへの加盟について次のように報告している。「過ぐる一年間のエキシメンカ関係の中で新しい発展は、日北米宣教協力会(JNAC)へ準会員として加入し、北米諸教派と姉妹関係をもちに至ったことである。我々がカナダ長老教会との宣教をもつ前にもつていたアメリカ教会との紐帯を回復したものである。我々の意図するところは、北米の諸教会との国際的連帯を通して、とくに社会において抑圧されている民族の人権のために互いに参与すること

JNACを通しての北米教会との宣教協力は、KCCJにとって新たな宣教の地平を切り拓きつつあった。JNAC加盟後の最初のプログラムは、1973年4・5月に実施された訪米視察であった。その目的は、北米社会(アメリカ、カナダ)の黒人や先住民、そして移民などのマイノリティが置かれた現状と公民権運動や住民組織運動を視察し、在日コリアンの差別撤廃運動に活かすことであった。視察団は、団長に金信煥牧師(総会社会局)、崔忠植・李清一(KCCJ幹事、権仁淑全国婦人会会長、洪東根牧師(通訳)の7名であった。

1980年代、日本において指紋捺捺撤廃運動が活発になる中、JNACは、関係する在日宣教師たち、この問題に対して積極的に関心をもちて参加するように奨励した。そして、JNAC代表者は、日本国法務大臣や駐日日本大使館、米国内務省に指紋捺捺撤廃を要求する要望書を送付した。また、指紋拒否が原因で逮捕され、裁判闘争を行っていた人たちが、その場に数多く現れたのではないかと、私は思うのである。つまり、少年の物事は自分であらうと思つていた人たちが、小さな少年の行動と、イエスの祝福の姿に、自分の食物を、隣の人と共に分かち合おうとする、心の変化がもたらされたのである。しかもそれは、千人万人にのほろ、とてつもなく多くの人々の心が、一瞬にして変えられたのである。このように大群衆の気持ちが、一瞬にして変わることはとてつもなく大きな奇跡でないだろうか。一人の心を変え

1980年代、日本において指紋捺捺撤廃運動が活発になる中、JNACは、関係する在日宣教師たち、この問題に対して積極的に関心をもちて参加するように奨励した。そして、JNAC代表者は、日本国法務大臣や駐日日本大使館、米国内務省に指紋捺捺撤廃を要求する要望書を送付した。また、指紋拒否が原因で逮捕され、裁判闘争を行っていた人たちが、その場に数多く現れたのではないかと、私は思うのである。つまり、少年の物事は自分であらうと思つていた人たちが、小さな少年の行動と、イエスの祝福の姿に、自分の食物を、隣の人と共に分かち合おうとする、心の変化がもたらされたのである。しかもそれは、千人万人にのほろ、とてつもなく多くの人々の心が、一瞬にして変えられたのである。このように大群衆の気持ちが、一瞬にして変わることはとてつもなく大きな奇跡でないだろうか。一人の心を変え

1980年代、日本において指紋捺捺撤廃運動が活発になる中、JNACは、関係する在日宣教師たち、この問題に対して積極的に関心をもちて参加するように奨励した。そして、JNAC代表者は、日本国法務大臣や駐日日本大使館、米国内務省に指紋捺捺撤廃を要求する要望書を送付した。また、指紋拒否が原因で逮捕され、裁判闘争を行っていた人たちが、その場に数多く現れたのではないかと、私は思うのである。つまり、少年の物事は自分であらうと思つていた人たちが、小さな少年の行動と、イエスの祝福の姿に、自分の食物を、隣の人と共に分かち合おうとする、心の変化がもたらされたのである。しかもそれは、千人万人にのほろ、とてつもなく多くの人々の心が、一瞬にして変えられたのである。このように大群衆の気持ちが、一瞬にして変わることはとてつもなく大きな奇跡でないだろうか。一人の心を変え

1980年代、日本において指紋捺捺撤廃運動が活発になる中、JNACは、関係する在日宣教師たち、この問題に対して積極的に関心をもちて参加するように奨励した。そして、JNAC代表者は、日本国法務大臣や駐日日本大使館、米国内務省に指紋捺捺撤廃を要求する要望書を送付した。また、指紋拒否が原因で逮捕され、裁判闘争を行っていた人たちが、その場に数多く現れたのではないかと、私は思うのである。つまり、少年の物事は自分であらうと思つていた人たちが、小さな少年の行動と、イエスの祝福の姿に、自分の食物を、隣の人と共に分かち合おうとする、心の変化がもたらされたのである。しかもそれは、千人万人にのほろ、とてつもなく多くの人々の心が、一瞬にして変えられたのである。このように大群衆の気持ちが、一瞬にして変わることはとてつもなく大きな奇跡でないだろうか。一人の心を変え

1980年代、日本において指紋捺捺撤廃運動が活発になる中、JNACは、関係する在日宣教師たち、この問題に対して積極的に関心をもちて参加するように奨励した。そして、JNAC代表者は、日本国法務大臣や駐日日本大使館、米国内務省に指紋捺捺撤廃を要求する要望書を送付した。また、指紋拒否が原因で逮捕され、裁判闘争を行っていた人たちが、その場に数多く現れたのではないかと、私は思うのである。つまり、少年の物事は自分であらうと思つていた人たちが、小さな少年の行動と、イエスの祝福の姿に、自分の食物を、隣の人と共に分かち合おうとする、心の変化がもたらされたのである。しかもそれは、千人万人にのほろ、とてつもなく多くの人々の心が、一瞬にして変えられたのである。このように大群衆の気持ちが、一瞬にして変わることはとてつもなく大きな奇跡でないだろうか。一人の心を変え

YMCA 在日同胞文化の創造と多文化共生社会を目指して 2006年4月25日、創立100周年を迎えました。

- ◆東京で一番安く便利な宿泊研修施設(ホテル): フロントは日・韓・英語に対応、24時間サービス。10名様から220名様会議及び宿泊研修(50名様)も可能。
- ◆スペースワイホール: 220席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに最適
- ◆韓国文化(チャング・カヤグム・舞踊)教室・韓国語講座・各種こどもクラス
- ◆YMCAアジア語学院(日本語学校) ※会員及び教職者割引有

(税込)	平日	休・休前日
シングル	¥6,300	¥5,040
ツイン	¥11,550	¥9,240
トリプル	¥14,490	¥11,592

朝食¥200 カルピック、コムタン、ユッケジャン、韓定食、洋食(全メニューコーヒー付き)

在日本韓国YMCA
http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/

東京韓国YMCAアジア青少年センター
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5 TEL 03-3233-0611 FAX 03-3233-0633
関西韓国YMCAアジア青少年センター
〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-15 TEL 06-6981-0781 FAX 06-6981-0782

去る4月26日、大阪西成教会において、金成雄執事の長老將立式が行われた。礼拝では、金武士牧師の司会のもと、武庫川教会の李聖雨牧師が「主にあつて」（サムエル記上2・1・2）というテーマで説教を行った。

礼拝に続いて、関西地方教会長の金聖三牧師の司式により、長老將立の誓約と

握手料が行われた。金成雄長老（大阪）が任職者に金安弘名誉牧師（永和）が教友にそれぞれ勤勉を行い、総会長の鄭然元牧師（大阪）と関西地方会副会長の金鐘賢牧師（浪速）からの祝辞があつた。

將立された金成雄長老の答辞、金元治元老牧師（大阪西成）の祝祷をもつて將立式を終えた。

金成雄長老は、1946年生まれの日二世で、93年に大阪西成教会で受洗家族には妻と二男一女がいる。

ニューキング 四日市市野田1丁目965-1
TEL (0593) 31-4771(代)

三 愛 岡崎市大和町字荒田14-1
TEL (0564) 31-8893(代)